

なし「おりひめ」の栽培特性の把握と苗木育成技術の実証

要約

なし「おりひめ」苗木の主枝候補新梢にジベレリンペーストを処理することにより、新梢伸長が促進され、主枝延長枝の確保ができた。高接ぎ樹の果実は満開後 105 日で収穫が可能であった。果実の外観品質確保のためには有袋栽培が必要である。使用する袋は褐色袋が適していたが、袋かけ時期についてはさらに検討する必要がある。

○ 展示のねらい

「おりひめ」は苗木育成中及び定植後の生長が弱く、樹冠拡大促進技術が求められているほか、収穫適期の判断が難しいこと、果実外観品質に問題があることなどが課題である。そこで、品種特性に応じた苗木育成技術及び果実外観品質確保技術について調査し、「おりひめ」の現地適応性と長期集出荷体系品種としての位置付け、商品性向上を実証する。

○ 主な成果

表 1 新梢長の推移 (cm)

処理区	第 1 回処理時 (満開後 20 日)	第 2 回処理時 (満開後 62 日)	落葉時	剪定後の主枝長
供試区	8.9	49.3	99.4	136.6

「おりひめ」3 年生苗木においてジベレリンペーストを新梢基部及び先端の計 2 回処理した剪定後の主枝長は 136.6cm となり、主枝候補枝として使用できるまでの新梢長が確保された。

表 2 果実袋の種類の違いと果実品質

袋の種類	果重 g	果色 C.C. (赤道部)	外観 品質	糖度 Brix%	食味	日持ち日
サエト S3F1 12 (一重・青色)	353	3.6	やや良	12.0	やや良(果肉軟)	
褐色-重-L (一重・褐色)	378	4.1	やや良	11.9	良	5
1w BF92E (二重・白色)	385	4.1	やや良	11.4	やや良(果肉軟)	
無袋	315	3.4	やや不良	12.1	良	5

高接ぎ 4 年生樹における満開から収穫始までの果実成熟日数は 105 日、収穫盛までは 108 日であった。満開後 50 日に袋かけを行った有袋果実は、果面のサビ状斑、薬斑、果点間コルク状斑の発生が無袋果実に比べて少なかった。褐色袋使用果実ではこうあ部にサビ状斑が発生したが、外観品質、食味等を総合的に評価すると、今回供試した袋の中では褐色袋を使用するのがよいと考えられた。

○ 今後の方向性

定植苗木の早期樹冠拡大を図り、苗木から育成した樹の果実特性を明らかにする。有袋栽培を前提とした袋かけ時期、より品質確保できる袋資材の検討を行う。

管内各なし産地協議会における産地計画には、長期集出荷体制整備の推進品種として「おりひめ」を位置付けているが、老木園の改植における更新品種としても導入推進を図る。

実施機関：塩谷南那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：那須烏山市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315